

ベン・ジョーンソンのマスク： 『無知と愚行から解放されたキューピッド』

兵 頭 晴 子

(1) 上演前後の事情

1610年のクリスマスシーズンには、ジェームズ一世 (James I) の長男、ヘンリー (Henry) 王子と王妃アン (Anne of Denmark) が主催するマスクがそれぞれ行われる予定であった。¹⁾ それは、クリスマスを祝うと同時に、フランスの特命大使をもてなすものでもあった。

フランス王アンリ 4 世 (Henri IV) は、イギリスと条約を結ぶ準備を進めていたが、1610年 5 月 14日に暗殺されたため、ルイ 13世 (Louis XIII) が跡を継いだ。しかし実権は王妃マリー・ド・メディチ (Marie de Médici) が握っていた。ルイ 13世は同年 9 月にイギリスとの条約に署名した。The Marshal De Lavardin が特命大使に任命され、条約書類を携えてイギリスを訪問することになった。イギリス側の署名をとるためである。イギリスの宮廷はこの大使を特別手厚くもてなそうとしていた。すなわち、この 2 つのマスクで大使をもてなすつもりであった。しかし、マリー・ド・メディチは、そのような形で条約の事が公けに広まるのには反対であったので、マスクの上演にまにあわないよう、大使の出発を遅らせた。

1611年 1 月 1 日、ヘンリー王子のマスク『オペロン』が上演された。スペイン大使、ヴェニス大使が招待されていた。このマスクは内容、舞台ともすぐれて美しいものであった。当時の一般の劇場では、舞台装置はほとんど用いられていなかった (日本の能舞台のように)。ホワイトホールに仕上げられた『オペロン』の舞台上には、人々の目を奪う舞台装置や衣装がくりひろげられた。イタリアから多くの知識を得て帰国した鬼才イニゴ・ジョーンズの手になるものである。マスクの構成やせりふはベン・ジョーンソンが担当した。彼は1605年の『黒のマスク』以来、ほぼ定期的に宮廷で行われるマスクをイニゴ・ジョーンズとともに作成してきたが、ジョーンソンの担当したテキストに関して言うなら、このマスクにははじめて、内容にドラマティックな要素がもりこまれていた。イニゴ・ジョーンズの担当した舞台装置では、ふすま式の舞台背景を何重にも組み合わせおき、ふすまを左右に引くと後の新しい背景に変わるという方式で、すばやい舞台転換ができるようになるなど、技術面でも大きな飛躍があった。イニゴ・ジョーンズとベン・ジョーンソンの共同製作が大きく展開、発展してゆく転換点のひとつを印すマスクであった。マスクの中心人物であるヘンリー王子は舞台上に気品あふれる雰囲気漂わせて人々に好印象を与えた。このように、宮廷の観客たちに圧倒的な印象を与えたマスクを、フランスの特命大使ラバダンが見にこなかったため、アン王妃はソールズベリ伯爵 (Earl of Salisbury) に不平をもらしたようである。²⁾

王妃アンのマスク『無知と愚行から解放されたキューピッド』は、おそらくはフランス大使ラバ

ダンをもてなしたいという理由で、まず、1611年の十二夜（クリスマスの12日後にあたる1月6日）に延期されたが、さらに2月3日に再延期された。このときは急ぎ帰国しようとするラバダンを、マスクの上演をすることで何とかひきとめたようである。

ベン・ジョンソン作の『オペロン』、『無知と愚行から解放されたキューピッド』の2作とも、舞台装置をイニゴー・ジョーンズが、音楽をアルフォンソ・フェラボスコ（Alphonso Ferrabosco）が担当した。2つのマスクは1616年に出版されたフォリオにおさめられている。しかしこのテキストにはイニゴー・ジョーンズとアルフォンソ・フェラボスコの名は印されていない。以前のマスクでは、テキストの中でイニゴー・ジョーンズの名をあげたり、舞台装置や衣装のつくりや色までくわしく述べているものもある。『オペロン』のテキストでは舞台上の情景が示されているが、『無知と愚行〜』では舞台上の様子についても衣装についてもいっさい言及がなく、ただ、人物の入退場が印されているだけである。そして読者の理解を助けるためか、全体が332行の短いテキストの中に5ヶ所もの注がついている。これはいったいどういうことであろうか。

1631年ベン・ジョンソンとイニゴー・ジョーンズが決定的に決裂するよりずっと以前から二人がたびたび衝突していたことが知られている。たとえば1612年またはそれ以前に書かれたと思われる風刺詩の中でベン・ジョンソンがジョーンズを攻撃している。³⁾

また1631年のマスク作成のおりのいさかいに関係しており1631年作と思われる「イニゴー・ジョーンズへの忠告」は有名でよく引用されるが、ここではジョンソンの皮肉の口調も一層激烈である。

O Showes! Showes! Mighty Showes!
The Eloquence of Masques! What need of prose
Or Verse, or Sense t'express Immortall you?⁴⁾

ああ、見せ物！ 見せ物！ すごい見せ物！
それがマスクを雄弁に語ってくれる
不滅のお前を表現するのに、どんな散文、詩、ことばの意味で表わす必要があるだろうか？

この他にもジョンソンのジョーンズに対する風刺詩や、劇やマスクの中でジョーンズを揶揄しているもの、ドラモンドとの対話の記録の中で彼をけなしているものなどがあり、またジョーンズがジョンソンに応酬して書いた詩もある。こうしたことから、『オペロン』と『無知と愚行〜』には復讐の意味で、ジョーンズの名を出さなかったとする説も多い。⁵⁾ たしかに自己主張が強く個性的な二人ではあるが、二人のいさかいは性格の不一致などではなく、芸術のとらえ方、表現の仕方について完全なる一致を見出せなかったためであろう。

1611年の2つのマスク以降、1615年のマスク、『黄金時代の復帰』(The Golden Age Restored)までのほぼ4年間、二人は共に仕事をするとはなかった。ジョーンズが他の仕事にかかわっていたり、外国へ出かけたためである。たとえば1612年にジョンソンが『キューピッドの復活』(Love Restored)を書いたころ、ジェイムズ王の娘エリザベス(Elizabeth)の結婚を祝すマスク、Lord's Masque (Campion作)の舞台作りには、ジョーンズはかかりきりであったろう。また、ジョーンズがイタリアに18ヶ月滞在しているあいだに、ジョンソン作の2つのマスク、『馬上槍試合の闘い』(Challenge at Tilt)と『アイルランドのマスク』(Irish Masque)が1613年のクリスマスから1614年の新年にかけて演じられていた。この2つのマスクはドラマティックな要素が強く、ウィットに

富んでいる。この内容では舞台装置はほとんど不要であった。

ステューブ・オーゲルによれば、『無知と愚行〜』は、ジョンソンが宮廷のために書いたすべてのマスク他の催し物の中で最も文学的な作品であった。寓意的であり、それを説明するための注釈が施された。テキストの読者に舞台の様子を詳細に描いて見せる必要はないと考えていたらしい。実験的色彩が強かった。『オベロン』やそれ以前のマスクでは、舞台装置、衣裳、振付、歌、せりふ、それぞれがある理想、象徴を暗示し、それぞれが同じ重さを持つ。それらが重ね合わされて、ひとつの象徴へと収斂してゆく、とジョンソンは考えていたのではないか。しかし、特に『無知と愚行〜』あたりからは、マスクの趣旨を伝えるには、ことばの部分があれば十分で、スペクタクルの助けを借りる必要はない、文学的要素だけでマスクは成立しうる、と考えたようだ。しかし、これと同じスタイルをジョンソンは二度と試みることはなかった。⁶⁾

ベン・ジョンソンが最も文学的なマスクを書き上げた翌年、イニゴ・ジョーンズがチャンピオンと組んで作りあげた *Lord's Masque* は、舞台装置、機械仕掛け等に関するジョーンズのすべての知識と工夫の粋をちりばめたものであったらしい。つまり、ことばよりもスペクタクルに重点をおいたマスクだった。舞台が豪華であったことは誰もが認めたが、マスク全体としての評判はあまりおもしろくなかった。誰もとくに賞める人はなかった、と報告されている。ジョーンズが凝りすぎて、かえってイギリス人の観客には理解できなかった⁷⁾ と同時に、マスクの内容よりも装置やスペクタクルの腕前を見せつけようとする演出は、マスク全体の印象を弱めることになったのかもしれない。

二人がほぼ時期を同じくして、各自の持ち味の方へ強く傾いた作品を作った、すなわち、ジョンソンは文学的なものを、ジョーンズは舞台装置やスペクタクルに重点をおいたマスクを作成した。どちらも大きな反響を得ることができなかった。二人はお互いの力を足した、ことばとスペクタクルの複合的効果の威力を再確認したにちがいない。そこで『黄金時代の復活』(1615年)からは、いくたの感情の齟齬、いさかい、波乱を含みながらも、二人の突り多い共同作業が続いていったのである。このころから、ジョーンズは、ドラマティックな内容としっかり関わりあう舞台を作ってゆくようになる。

(2) マスクの内容

以上が『無知と愚行〜』が書かれた前後の事情である。⁸⁾ 1610年のクリスマスに上演される予定であった王妃主催のマスクは、マリー・ド・メディチの思惑に振りまわされ、遅れに遅れて翌年2月3日、女王を含む11人の女性マスカーを中心に演じられた。マスクの内容は次のようであった。

観客の主賓、ジェイムズ王が席につき、観劇の態勢が整ったら、騒がしい楽器による一風変わった音楽が流れる。その音楽にあわせてスフィンクスが踊りながら登場。縛られたキューピッドをひきつけている。スフィンクスはキューピッドに向かって言う。おまえはその矢を用いて天上の神々にも地上の人々にも絶大な影響力を持っていたが、今や私に捕えられて自由を失った。めかくししていたバンドは、いまおまえの手を縛っている。世界を荒野にしまおうとしたおまえは、わたしの餌食となるだろう。

これに対してキューピッドは、むしろ世界を生かしてゆくのが自分の仕事である。キューピッドがいなくなれば世界は混沌に陥る。愛は人と人を結びつけ、世界をひとつにまとめてゆくものだと主張する。また、なぜ自分をつかまえるのかと聞く。次には女性の観客に語りかける。このかわいそうなキューピッドに同情してくれる人はいるのですか。私のために涙を流してくれる人はいるの

ですか。泣くふりだけでもしてくれたら、つられて私に同情してくれる人が出てくるかもしれないのに。私に味方して、このスフィンクスを追いやって下さい。ここでスフィンクスはキューピッドをあざ笑う。

キューピッドは話を続ける。アジアの東のはてには大変美しい朝の娘が11人いる。長姉はアジアの女王である。彼女は太陽の神フィーバス (Phoebus) と結婚するのがよからうということになった。東の人々はフィーバスを敬愛しているので、朝日がのぼると供物として樹液をささげる。夜になって太陽の光がさえぎられてしまうと、泣き続けていて眠らないのである。そこで、キューピッドの案内で彼女たちは太陽の神を追って西のはてへ旅することにした。しかしこの島に到着したときスフィンクスに襲われ、捕えられた。彼女たちは夜の闇にとじこめられ、誰かがスフィンクスの謎を解かない限り永遠に出られない。

この後スフィンクスの謎が提示される。世界の外にある世界は何か。光であり宝であるもの。常に動き、常に固定している目... キューピッドが答えを誤ると、スフィンクスは勝ち誇って、娘の愚行 (follies), 12人を呼び、喜びのダンスをさせる。これがアンティマスク・ダンスである。キューピッドは再び女性の観客に助けを求める。するとそこへミュージックからつかわれた使いが12人登場し、ダンスをしながら歌う。歌いつつ、国王様をごらん下さいとヒントを与える。そこで、キューピッドが、太陽のごとくこの世の端から世界を明るく照らしている国王のことでありと正解を述べる⁹⁾とスフィンクスは娘とともに崖からまっさかさまに落ちてゆく。美の女神たちがキューピッドを称える歌を歌う。ここでマスカーたち (アン王妃と10人の女性) が登場してダンスをする。次に観客すべてとマスカーたちが踊る (revels)。次に再びマスカーたちのダンスがある。最後に、すべてをほめたたえる歌の中を、太陽神フィーバスにあいさつするごとくに、登場人物が、ジェイムズ王に会釈しつつ退場する。マスカーが登場するときの舞台は図1のような作りである。

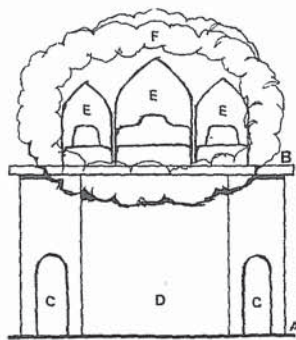


図1

これは2階建ての舞台で、

A一夜の牢を示す1階舞台

B—2階舞台。マスカーの座席(E)がぐるりと回るしかけがある。
180度回ることにより、マスカーが登場したり退場したりできる。

C—一階舞台，牢獄のドア

D—中央のドア。おそらくこのドアの中央が開いてマスカーが登場する。観客とダンスをするため、ここから下のフロアへ降りてゆくこともできる。

E—マスカーの座席となっている三つの回転式の仕かけ。

F—上下舞台の仕切りを隠す形に作られた雲

実際には、図2のような舞台である。中央の一番高い所に座っているのがアン王妃であろう。図3はアン王妃の髪形のデッサンである。図4は、このマスクに出演したマスカーの服装であると推定されている。スカートが足首より少し上の高さであり、長いスカートよりダンスがしやすいデザインである。¹⁰⁾ 舞台装置自体は以前の『女王のマスク』とよく似た作りであり、『オペロン』のような独創的かつ、早いテンポの情景変化はない。アンティマスクの場所 (スフィンクスの支配する闇の世界、牢獄) は下に、マスカーの席は上にあることがそのまま、それぞれの世界の価値を上下関係で示している。このテキスト自体がこれ以上の舞台装置を必要としない、あるいは、あまりに凝った装置を拒絶するのであろうか。

このマスクのテキストは、歌も含めてわずかに332行である。266行でスフィンクスが身を投げ

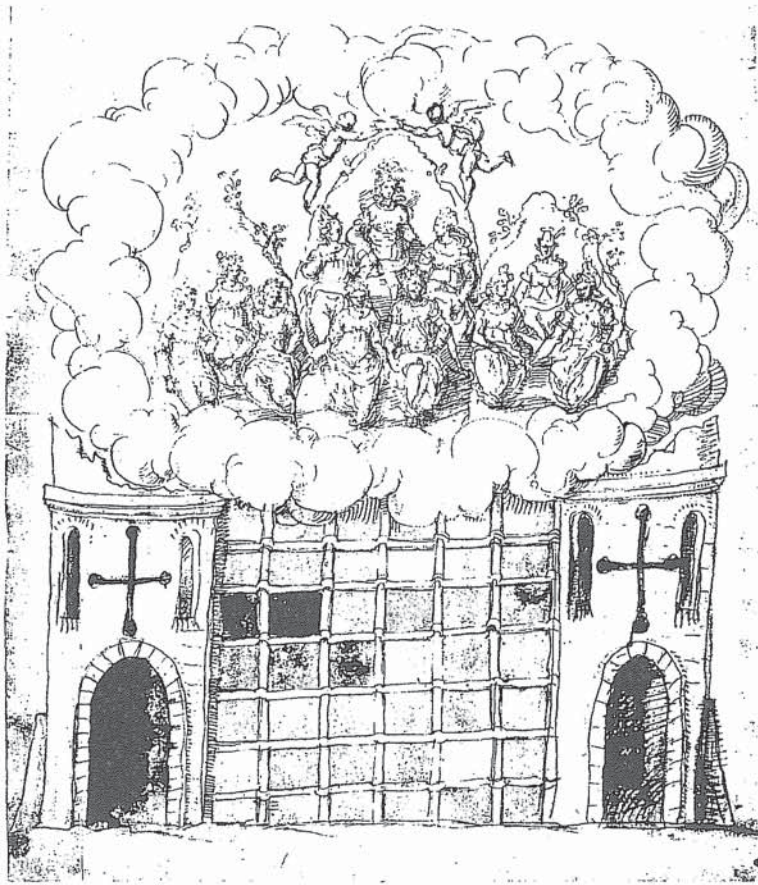


図2



図3

る、つまり悪役のアンティマーカーが減じる所までがアンティマスクと考えられる。その後、キュービッドを称える歌が269行から20行ほど続き、マーカーのダンスとなる。このあとは約40行ほどしかないが、ここにマーカーのダンスや、観客全体とのダンス、歌、さらに中休みに飲み物他が配られたりもしたのであろうから、この40行の部分が少なくとも3時間近くかかっているはずである。

アンティマスクの登場人物、スフィンクスの原意は「絞め殺す者」。女の頭とライオンの体をした、鷹の翼を持つ怪物であることは、ジョンソン自身も注釈で述べている。『オイディプス王』の中のスフィンクスは通りがかった人間に謎をかけ、解けないときは彼らにとびかかって連れ去り、むさぼり食った。しかしオイディプスが正解を言うと身を投げて死ぬ。このマスクでも同様の型で話が展開する。後に登場するマーカー11人すべてが女性なので、アンティマスクにも、対称的に女性のスフィンクスおよび、その12人の娘とを登場させたのであろう。

このマスクではLoveと呼ばれるキュービッドはアンティマスクおよびマスクプロパーの両方にまたがって登場している。これは、『オペロン』あたりから見られる新しい手法である。一応、ス



図4

フィンクスもキューピッドもギリシャ系の話と考えるとよいであろう。

民間の祭りと比較してみると、冬を示す者、死に神や雪など、何か寒いもの、生命の維持を危うくするような者が、春を示す者、たとえば太陽、緑などと戦って、結局冬が負けて春が勝利する、植物を枯れさせる冬が芽吹き春にとって代られるというパターンが、スフィンクス（人の命をちぢめる者）とキューピッド（愛によって人々を結びつけ、人々が生き続けてゆく力となる者）の闘いにおきかえられている。土着的内容の民間の祭に対して、人工的祝祭であるこのマスクはギリシャ神話に材をとっている。アンティマスクとマスクの交替が冬と春、闇と光の交代に重なる。

実際には観客であるジェームズ王（アン王妃は活発な方で、たびたびマスカーを演じたが、王は決して舞台上がらなかった）が、劇中の太陽神フィーバスに模され、はるか東のはてから美しい娘たちが巡礼のようにイギリスにやってきて、太陽神たるジェームズ王に会いに来る。国王こそが人々に生命と愛をもたらす神に等しいという、マスク全体が国王への賛辞（flattery）となっている。

キューピッドがしきりに観客の女性のFavourを求め、また、たびたび形、姿の美しさに言及していることは、キューピッドが愛したという、そしてあまりの美しさゆえ女神にも嫉まれたというプシュケーにマスカーも含めた宮廷のすべての女性を模して、賛辞として

いるのかもしれない。いずれも本来祭では神のくるべき位置に人（国王、廷臣たちの妻女等）が配されている、そしてそのすばらしい神のいます国が他ならぬイギリスである、という設定は、1605年以来のマスクと同様のパターンである。

登場人物として、マスカーの他には、司祭役の12人の音楽家（おそらく歌手）、12人のルート奏者、14人のヴァイオリン奏者、「愚行」や「小姓」に合わせて音楽を奏でた者15人、オーボエとサクソバット（トロンボーン属の楽器）13人、キューピッド、スフィンクス、三女神を演じた5人の少年、12人の「愚行」役がいる。このメンバーを見ただけでも、マスク全体が音楽に満ち満ちたミュージカルのようにあり、またダンスが特別たくさん盛りこまれた舞踊劇のようでもあることがわかる。

注

テキストの引用はすべて C.H.Herford, Percy and Evelyn Sympson ed., *Ben Jonson* (Oxford, 1947) を用いた。以下 *Jonson* と表記する。

テキストの訳は拙訳である。

- 1) クリスマスに2つのマスクを上演する予定であったことは、2つのマスクの費用を負担することを承諾しているジェイムス王の次の文書からも明らかである。

Jul, Cæsar'

James R.

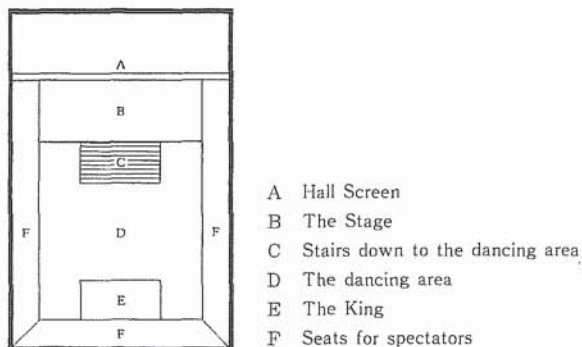
JAMES by the grace of God &c. To the Tre? and Vndertre? of our Excheqr greeting. Whereas we are pleased to be at some charge aboute two Maskes, the one for the Queene our deere Wife, the other for the Prince our sonne. These shalbe to will and require yo^w to yssue out of our treasure such severall so^mes of money as shalbe demaunded of yo^w by Certificate vnder the handes of our Cosins the Earles of Suffolk and Worcester for the Queene, and Sr Thomas Challoner knight for the Prince, And theis our Lr^{es} &c, Given & C.

By order from the Lo. Tre?

Windebank.

Jonson, X, 520.

- 2) これはヴェニスの大使が聞きかじったことだが、王と王子がラヴァダンに栄誉を与えようとしたのを理解しない（受けない）のは不愉快であるとアン王妃が述べたようである。*Jonson*, X, 519.
- 3) *Jonson*, XIII, 74-5. 'On the Townes Honest Man'
- 4) *Jonson*, XIII, 403.
- 5) Stephen Orgel ed., *Ben Jonson : The Complete Masques* (Yale U.P., 1975), p.21.
- 6) Stephen Orgel ed., *op. cit.* p.21.
- 7) さすがにヴェニスの大使は細部に至るまで、スペクタクルの効果に気づき、それをほめている。*Ben Jonson*, X,
- 8) ここまでの概略は主として *Ben Jonson*, X, および Stephen Orgel, *op. cit.* の Introduction を参照して書いた。
- 9) このマスクはホワイトホールの宴会の間で演じられた。王の席は下図の E の位置にあったと予測される。それは、広間の端にあって広間全体に輝きを与えている、宇宙における太陽の位置と類似している。



- 10) 図はすべて Stephen Orgel and Roy strong, *Inigo Jones* (Univ. of California press, 1973) pp.234-7. にあるものを用いた。